

2016 年度 入学 試験 問題

地 理 B

(試験時間 13:15~14:15 60分)

1. この冊子は、出願時に選択した科目の問題冊子です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙のみです。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。

I ラテンアメリカにかんする次の文章を読んで、設問に答えなさい。(25点)

ラテンアメリカの農業制度には、広大な農牧場に労働者を定住させ、管理者のもとで経営をおこなう（ア）がある。例えば、アルゼンチンでは、牛の放牧が（イ）とよばれる大平原でおこなわれ、ブラジルでは、さとうきびが大農場で栽培された。20世紀後半以降には、企業的な農業経営が発展し、大型機械を使って⁽¹⁾商品作物が栽培されるようになった。

ラテンアメリカは、⁽²⁾鉱産資源や農産物などの（ウ）産品を輸出することを基盤にして経済を発展させてきたが、ブラジル、アルゼンチン、チリ、メキシコなどでは、政府主導の（エ）の工業化により、国内産業の育成を進めた。しかし、こうした保護主義的な政策は、その後のラテンアメリカ諸国の経済の低迷を受けて、転換されることになった。

ラテンアメリカ諸国間の経済交流としては、ラテンアメリカ自由貿易連合、中米共同市場に続いて、1969年には（オ）が発足した。現在の加盟国は、コロンビア、ペルー、ボリビア、エクアドルである。1990年代以降では、域内の財・サービスなどの自由市場を目指して、（カ）が⁽³⁾4カ国によって1995年に創設された。

これまでの経済発展の中、さまざまな問題が生じてきている。アマゾン地域の開発では、熱帯林の破壊が進行している。また、都市問題も深刻であり、人々の居住が農村から大都市に集中したため、ブラジルでは（キ）とよばれるスラムが拡大した。親などによって養育されず、あるいは、住む家がないため路上で生活するストリートチルドレンの問題も生じている。

問1 文中の（ア）～（キ）に入るもっとも適切な語句を、以下の選択肢から選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

[選択肢]

- | | | |
|----------|--------|-----------|
| ①イーストエンド | ②セルバ | ③ファベータ |
| ④マキラドーラ | ⑤パンパ | ⑥大土地所有制 |
| ⑦一次 | ⑧二次 | ⑨輸出指向型 |
| ⑩輸入代替型 | ⑪集積指向型 | ⑫OAS |
| ⑬CAN | ⑭ALADI | ⑮MERCOSUR |
| ⑯集団農業 | ⑰生産責任制 | ⑱ニュータウン |

問2 下線部(1)にかんして、次の表は、ある作物の国別生産量の割合（2012年）を示している。この作物の名前を、以下の選択肢から1つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

アメリカ (33.9%)	ブラジル (27.2%)	アルゼンチン (16.6%)	中国 (5.3%)	インド (4.8%)	その他 (12.2%)
-----------------	-----------------	-------------------	--------------	---------------	----------------

出所) 『データブック オブ・ザ・ワールド 2015年版』より作成。

[選択肢]

a. 大豆	b. 小麦	c. 米	d. とうもろこし
-------	-------	------	-----------

問3 下線部(2)にかんして、次の表は、世界における鉱産資源の産出量（2011年）の国別順位である。①～③に該当する国名を、以下の選択肢から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

産出量の順位	鉄鉱石	銅鉱	銀鉱
第1位	中国	②	③
第2位	オーストラリア	中国	中国
第3位	①	ペルー	ペルー

出所) 『世界国勢図会 2014/15年版』より作成。

[選択肢]

a. メキシコ	b. ボリビア	c. ペルー
d. ベネズエラ	e. ブラジル	f. チリ
g. コロンビア	h. ウルグアイ	i. アルゼンチン

問4 下線部(3)にかんして、4カ国の組み合わせとして正しいものを以下の選択肢から1つ選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

[選択肢]

- | |
|-------------------------------|
| a. コロンビア, チリ, ブラジル, ペルー |
| b. ウルグアイ, コロンビア, チリ, ブラジル |
| c. アルゼンチン, ウルグアイ, チリ, ブラジル |
| d. アルゼンチン, ウルグアイ, パラグアイ, ブラジル |

問5 ブラジルの都市について、次の1)～2)に答えなさい。

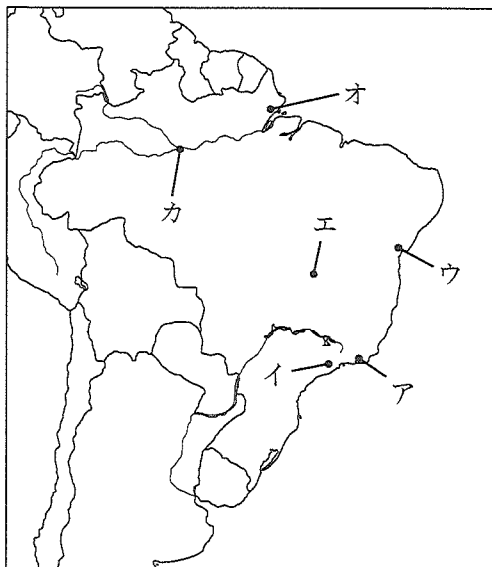
1) 下表の①～③に該当する都市名を、以下の選択肢から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

都市	特徴
①	アマゾン開発の拠点。1967年に自由貿易地区に指定され、電気機器や機械などの工業が誘致された。熱帯の観光都市でもある。
②	人口1千万人を超えるブラジル最大の商工業都市。19世紀後半以降、コーヒーの集散地として急激に発展した。
③	ブラジルの首都であり、連邦政府の所在地。1960年に建設された計画都市であり、1987年にユネスコの世界遺産に認定された。

[選択肢]

- | | | |
|-----------|----------|-------------|
| a. サルヴァドル | b. サンパウロ | c. ブラジリア |
| d. ベレン | e. マナオス | f. リオデジャネイロ |

- 2) 上記の都市①～③の正しい位置を以下の地図のア～カの中から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。



II 南アジアの宗教と生活にかんする次の文章を読んで、設問に答えなさい。(25点)

(ア)とブータンを除く南アジアは、(イ)の植民地であったが、1947年に^(A)ヒンドゥー教徒が多数を占めるインドとイスラム教徒が多数を占めるパキスタンとに分離独立した。この時、カシミールで両国の国境をめぐる紛争が引き起こされた。1948年には仏教徒が多数を占める^(B)スリランカ(当時の国名はセイロン)が独立した。その後、1971年には、パキスタンからその東部地域が(ウ)として独立した。なお、(ア)ではヒンドゥー教徒が、ブータンではチベット仏教徒が多数を占めている。このように、南アジアの国々は、多数を占める宗教が国ごとに異なっていることが大きな特徴である。

インドでは、前述のとおりヒンドゥー教徒が多数を占め、次いで、イスラム教徒、(エ)教徒が多い。これに対して、^(C)シーク教、仏教、^(D)ジャイナ教は、インドで誕生したにもかかわらず、必ずしも多くの信者を擁してはいない。

ヒンドゥー教は、バラモン教を基礎とし、仏教、インド各地の宗教や習俗と結びついて、長い時間をかけてつくられてきた。また、インドの制度、慣習や価値観の基盤となっており、インドを理解する上できわめて重要な意味を持っている。

仏教は、紀元前5世紀ごろインドの(オ)川流域で釈迦によって開かれ、大きく^(E)上座部仏教と(カ)に分かれる。インドは、イスラム教徒が1億数千万人おり、世界で3番目にイスラム教の信者の多い国である。

このように、インドには多様な宗教があり、また分離独立の際に宗教間の対立に苦しんだこともあって、国教は存在せず、信仰の自由を尊重している。

インドで見逃すことができないのは、カースト制である。カースト制は、ヒンドゥー教の教えをその基礎に置いており、人々の職業の選択、結婚など生活全体を規定している。カースト制の下では、職業は世襲され、同一のジャーティ内の人と結婚する。この結果、カースト制には、職業の保障、相互扶助^{よびよ}などを通じて社会的な安定に寄与する面がある一方で、下層カーストの人々に対する差別的な面が出てくる。カーストによる差別は、憲法で禁止されたが、実際には(キ)地域を中心に依然として存在している。しかし、近年では、カースト制をこえるさまざまな動きも出てきている。

また、ヒンドゥー教では、牛は神聖なものであり、ヒンドゥー教徒は、一般的に牛肉を食べない。そのため、肉類などを食べない（ク）が少なくなかったが、近年牛肉ではなく、鶏肉などを食べる若い世代が急激に増加している。さらに、インド経済の自由化を背景に、外国資本の進出やIT産業の成長によって、従来のジャーティごとの仕事には含まれない新しい仕事を中心とした雇用が増加している。こうした仕事を職業とし、高い給与を取る人々を新中間層とよぶ。これらの人々の中には、欧米風の生活様式を採り入れて、仕事ではスーツやワイシャツを着こなし、外出などのときにはTシャツやジーンズを着るような人たちもいる。

このように、インドでは、近年、従来からの伝統や慣習から離れた新しい文化や価値観が受け容れられてきている。

問1 文中の（ア）～（ク）に当てはまるもっとも適切な語句を解答欄に書きなさい。

問2 下線部(A)について、次の中から、ヒンドゥー教の特徴として明らかに誤っているもの1つを選びなさい。

- ① インドネシアのバリ島では、古くに伝えられたヒンドゥー教が現在でも信仰されている。
- ② 輪廻思想がその根底にある。
- ③ 動物、太陽、山、川などは、崇拜の対象とならない。
- ④ ヒンドゥー教の聖地であるチベット高原西部にあるカイラス山は、チベット仏教の聖地ともなっている。

問3 下線部(B)について、その国民の約4分の3を占める人々を次の中から選びなさい。

- ① シンハラ人
- ② タミル人
- ③ ムーア人
- ④ タタール人

問4 下線部(C)について、次の中から、シーク教の特徴として明らかに誤っているものの1つを選びなさい。

- ① 偶像崇拝^{すうはい}を禁止している。
- ② カースト制を批判している。
- ③ ヒンドゥー教の教えに仏教の要素を採り入れたものである。
- ④ 髪や髭^{ひげ}をそることが禁じられている。

問5 下線部(D)について、次の中から、ジャイナ教の特徴として明らかに誤っているものの1つを選びなさい。

- ① 苦行・禁欲主義^{くぎょう}で知られている。
- ② インドの文化に与えた影響は、無視できる程度である。
- ③ 開祖は、釈迦^{しよか}と同時代のマハーヴィーラ（マハーピーラ）である。
- ④ 不殺生^{ふせつじよう}で知られている。

問6 下線部(E)について、上座部仏教の特徴を50字以内で説明しなさい（句読点も字数に含める）。

Ⅲ 世界の交通・通信と観光業の発達についての次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(25点)

交通とは や物の輸送のことを指すが、用いる輸送手段に応じて3つに大別できる。すなわち陸上交通、水上交通、航空交通である。交通の発達には関連する技術の発明や発展が大いに関係している。歴史的にみると交通は、地形などの条件と関連技術の発展度合いに応じて発達してきた。

陸上交通においては、トラックやバス、乗用車の普及などが輸送の距離と物量を大きく増やした。日本でも1960年代以降 A (①グローバリゼーション ②スプロール現象 ③ドーナツ化現象 ④モータリゼーション) が進展し、自動車は陸上交通の中心を占めている。一方、世界では鉄道輸送の発達も目覚ましい。主な大陸には ⁽¹⁾大陸横断鉄道が敷設され、⁽²⁾ユーロトンネルなどの海底鉄道トンネルも掘られている。また高速鉄道が主要都市を結び、大きな都市では地下鉄や路面電車などが敷設されている。先進国の優れた高速鉄道の技術は外国に輸出されている。

水上交通では、複数国を流れるドナウ川、ライン川、B (①エルベ川 ②セーナ川 ③ミシシッピ川 ④揚子江) などの国際河川が、古くから船舶の運航に重要な役割を果たしてきた。技術面では、金属製の大型容器である C (①クレーン ②コンテナ ③コンベヤ ④パレット) の開発が、荷造りと輸送機関交代時の積み替えの手間を省き、貨物輸送の効率を飛躍的に高めた。それを専門に輸送する貨物船もあり、埠頭では毎日船への積み下ろし作業がおこなわれている。一方、原油を専用に輸送する船は と呼ばれ、外国からの原油の長距離・大量輸送を可能にした。⁽³⁾運河の建設は船の運航を容易にし、世界の貿易を拡大した。

水上交通は輸送のエネルギー効率に優れるため、地球環境問題への対応という面でも近年注目されている。地球環境に配慮するなどして交通手段を変更することを D (①エネルギーシフト ②ゴールドラッシュ ③ジェントリフィケーション ④モーダルシフト) という。

航空交通は機体の技術的発達や、巨大空港施設の建設などを契機に発達してきた。航空機がプロペラ機からジェット機に進化したことは、世界各地への時間距離を大きく短縮した。またフランスのシャルル・ド・ゴール、 のヒースロー、タイ

のバンコク、シンガポールのチャンギなどの国際空港は、ローカル航路の結節点であるハブ空港としても機能している。

通信の分野では、海底ケーブルの敷設や人工衛星の打ち上げがなされるとともに、世界的なコンピュータ・ネットワークである が世界中で利用者を拡大している。これと携帯電話の普及は世界の通信量を格段に増やし、それらを使った電子商取引が取扱高を急増させている。電子商取引は英語名の略称から、アルファベット2文字を使い ともよばれる。

現代社会は高度情報化社会といわれるほど情報通信が発達しているが、他方では、⁽⁴⁾情報格差など新たな問題も生じている。

以上にみえてきた交通や通信の発達は、社会のインフラストラクチャーとして、さまざまな産業や市場の発達に貢献している。観光業もその恩恵を受ける産業の1つである。交通機関の発達は二地点間の時間距離を大幅に短縮するため、⁽⁵⁾世界の観光都市を訪問する観光客が増えている。訪日外国人がわが国にもたらす需要は、 E (①アウトバウンド ②アウトバーン ③アウトレット ④インバウンド) 消費とよばれている。

問1 文中の ~ に入るもっとも適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問2 文中の A ~ E に入るもっとも適切な語句はどれか。①~④より選択し、その番号を解答欄に記入しなさい。

問3 下線部(1)にかんして、世界の大陸横断鉄道について説明した以下の文章の中で正しいものはどれか、解答欄に番号を記入しなさい。

- ① アフリカ大陸を走るタンザン鉄道はタンザニアのダルエスサラームとザンビア中部のカピリムポシを結んでいるが、ザンビアで産する銅鉱石をタンザニア経由で輸出する目的で敷設された。
- ② アメリカ合衆国の旅客鉄道であるアムトラックは、シカゴなどの拠点都市から放射線状に延びて全米各地を結んでいるが、一部はメキシコのバンクーバーやモントリオールまで延びている。
- ③ オーストラリア大陸を横断するインディアン・パシフィック鉄道は、東海岸にあるオーストラリアの首都シドニーからインド洋に面した西海岸のパースまでを結んでいる。
- ④ ユーラシア大陸を横断するシベリア鉄道は、ロシア連邦の首都であるモスクワと中国のウラジオストクを結ぶ世界有数の長距離鉄道である。

問4 下線部(2)にかんして、ユーロトンネルが通る海峡の名称を答えなさい。

問5 下線部(3)にかんして、世界の運河についての次の説明文には明らかに誤っているものが1つ含まれている。解答欄にその番号を記入しなさい。

- ① 現在スエズ運河はエジプトが管轄しているが、国際物流の要衝であるため、その経営権をめぐる国家間の紛争の火種となってきた。
- ② スエズ運河は紅海と地中海を結ぶ運河で、その完成以前はヨーロッパからアジア方面への貿易は、アフリカ南端の喜望峰を経由するなど長期間を要していた。
- ③ パナマ運河はアメリカ合衆国が完成させた水平式運河で、運河を含む周辺地域をアメリカが長年租借していたが、その後パナマに返還された。
- ④ パナマ運河は太平洋とカリブ海を結ぶ運河であり、その完成によりアメリカ合衆国の西海岸と東海岸を結ぶ海運が便利になった。

問6 下線部(4)にかんして、情報格差を表す別名称をカタカナで答えなさい。

問7 下線部(5)にかんして、下表は世界の4つの観光都市と所在国の組み合わせを表している。正しい組み合わせはどれか。解答欄に番号を記入しなさい。

	チェジュ	ニース	プーケット	ロングビーチ
①	アメリカ合衆国	韓国	タイ	オーストラリア
②	韓国	アメリカ合衆国	フィリピン	フランス
③	韓国	フランス	タイ	アメリカ合衆国
④	タイ	アメリカ合衆国	韓国	フランス
⑤	タイ	フランス	韓国	アメリカ合衆国
⑥	フランス	韓国	フィリピン	オーストラリア

IV 世界と日本の工業にかんする次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(25点)

工業の形態は、歴史とともに大きく変化してきた。工業は最初、自給のための(ア)として発達した。その後17世紀のヨーロッパでは、製品の販売を目的に工場を営む資本家が現れた。工場には労働者が集められ、分業によって加工生産をおこなう(イ)が普及していった。18世紀後半になると、産業革命が進行し、工業生産は急速に拡大した。コークスを原料とする製鉄法や、蒸気機関・動力機械などが発明され、生産形態は機械を導入した(ウ)に移行した。繊維製品や食品など、消費財を生産する軽工業の発達とともに、工業用の機械など、生産財をつくる工業も発達し、鉄鋼業・機械工業などの重工業が成立した。20世紀に入ると、電気の利用や科学の応用が進み、自動車や航空機、各種の化学製品などを生産する(エ)が発達した。

世界の工業地域に目を向けると、1990年代以降、世界の工業生産の拠点には、EU、アメリカ合衆国、日本・韓国・中国をそれぞれ中心に、ヨーロッパ、⁽¹⁾NAFTA諸国、東・東南アジアの3つの地域からなる(オ)が見られるようになった。(オ)の核心を構成するEU、アメリカ合衆国、日本の工業地域は、第二次世界大戦後に大きく変貌した。それまで、炭田や鉄鉱産地などに形成された重化学工業地域と、大きな消費市場を背景とする大都市工業地域が、2つの核であった。しかし、良質で安い原料を世界中から輸入する傾向が強まると、新しい(エ)は大都市周辺の(カ)に立地した。耐久消費財の需要拡大によって成長した自動車や電機などの機械工業も、巨大な組み立て工業群として大都市の周辺部に拡散した。こうして、大都市圏の(キ)が拡大した。

また、工業のハイテク化とともに、高度の専門技術者の居住環境に恵まれた新しい地域が(ク)の集積地となり、アメリカ合衆国の南部や太平洋岸、EUの地中海沿岸地域などへ立地が拡大した。

アジアでは1970年代以降、(ケ)の工業化が急速に進んだ。まず、韓国、台湾、香港、シンガポールのアジア⁽²⁾NIEsで工業が発達した。1990年代以降、タイやマレーシアなど⁽³⁾ASEAN諸国でも新しい工業地域が形成されている。さらに中国でも、改革開放路線のもとで(ケ)の工業化が図られ、沿岸地域に巨大な工業地域が生まれた。中国は近年、(コ)とよばれている。

こうした中で、日本は1960年代に高度経済成長を達成し、先進工業国として世界に知られるようになった。鉄鋼・石油化学などの素材型工業と、電気機械・精密機械・自動車などの機械工業において、大量生産の技術が確立され、輸出も増加した。この時期の工業は、関東地方南部から九州地方北部にかけての（ い ）に集中していた。その後、1970年代の石油危機を契機に素材型工業の生産は停滞したが、自動車や電気機械などの機械工業が基幹産業となって、経済成長を牽引した。中でも半導体やエレクトロニクス関連商品の生産が急速に増加した。1980年代の日本の工業生産は世界でも上位を占めるようになり、日本製品は世界各国に輸出されるようになった。

(a) 自動車をはじめとする日本の工業製品の輸出の急増は、1980年代に入るとアメリカ合衆国やヨーロッパ諸国との間で、深刻な（ ろ ）を引き起こした。その解決策として、自動車の場合は輸出の数量制限や自主規制枠が設けられた結果、輸出による海外市場の維持・拡大が困難になった。このため日本企業は、生産拠点を海外に移し、現地で生産した自動車を供給するようになった。

日本企業の海外進出は、1985年以降の円高によっていっそう進み、生産コストを下げるために安い労働力や安価な用地などを求めて、アジア諸国に進出する企業が増加した。一方、企業の海外進出にともなって、国内の工場や従業員数は大幅に減少し、（ は ）が起こった。また、バブル経済崩壊後の1990年代に生じた不況と、東南アジアや中国からの安い工業製品の流入は、いっそうの合理化を企業に迫り、正規雇用が削減されるとともに、派遣労働などの非正規雇用が増加した。

問1 文中の（ ア ）～（ コ ）に入るもっとも適切な語句を次の表から選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

1	技術革新	2	輸出指向型	3	国際分業
4	工場制手工業	5	軽工業	6	工場制機械工業
7	三極構造	8	国産化政策	9	重化学工業
10	家内制手工業	11	世界の工場	12	先端技術産業
13	多国籍企業	14	大量生産方式	15	複合工業地域
16	付加価値	17	エレクトロニクス産業	18	臨海部

問2 下線部(1)～(3)の日本語名を解答欄に記入しなさい。

問3 文中の(い)～(は)に入るもっとも適切な語句を解答欄に記入しなさい。

問4 下線部(a)に関連して、(A)アメリカ合衆国、(B)ドイツ、(C)イギリスにおいて現在世界的に自動車生産で有名な「自動車の街」をそれぞれの選択肢の中から1つ選び、その番号を解答欄に記入しなさい。

(A)アメリカ合衆国

①	シアトル
②	ソルトレークシティ
③	ポートランド
④	デトロイト
⑤	シカゴ
⑥	フィラデルフィア

(B)ドイツ

①	ハンブルグ
②	ウォルフスブルグ
③	ケルン
④	フランクフルト
⑤	ボン
⑥	ニュルンベルグ

(C)イギリス

①	ケンブリッジ
②	マンチェスター
③	ランカスター
④	シェフィールド
⑤	コヴェントリ
⑥	リヴァプール



